
仮面ライダーディレード～世界を巡る特撮ヲタ～

三駄一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディレイド〜世界を巡る特撮ヲタ〜

【Nコード】

N5195BA

【作者名】

三駄ー

【あらすじ】

特撮オタクの主人公は異世界の怪人に襲撃される。そこに現れた3人の仮面ライダー。 「お前は仮面ライダーになった。お前はこれから各世界の自分の変身しているライダーの力を手に入れて来い。」

今、少年の世界を巡る自分探しの旅が始まる…！

駄人間の処女作です。駄文になると思います。

オリジナルライダーが多数登場します。苦手な人は注意して下さい。

プロローグ（前書き）

短いです。駄文ですがよろしく願います

プロローグ

昔から特撮は好きだった。周りからオタクと呼ばれる程に。中でも仮面ライダーは特に好きだった。

だが、いざそんな光景を目の前にすると流石に立ち尽くすしか無いのが人の運命。

俺の前に広がる風景は明らかに常識を反していた、言うなれば俺の好きな特撮の世界だ。破壊された街、逃げ惑う人々、様々な武器を持った異形の集団。俺は思わず腰を抜かしてしまった。こんなことが有り得るのか…。

何時の間にか手に持っていたレバーの付いたスロットマシンのようなバツクルと数枚の青縁のメダル。異形は明らかにそれを狙っている。それが何か分からないまま俺はただ怯えるしか無かった…。

迫って来る牛の異形の鉈が振り上げられる。もう無理だ…俺ここで死ぬ…今までのことが頭に蘇ってくる…ああこれが走馬灯なんだ…。目をつぶり無意識に俺はこう呟いた…

「仮面ライダー…」

様子がおかしい。振り下ろされる筈の鉈が来ない。

何かを切る音がする。恐る恐る目を開けると、そこには先程の牛の異形が倒れており、俺と異形の間には三人の戦士がいた。1人は黒いバツタのような姿に真つ赤な複眼、赤い風車のようなパーツが2つ

付いたバツクルの戦士。1人は金の龍のような姿に赤い複眼の戦士。中央に立っているのはマゼンタのボディにバーコードのようなマスクの戦士。俺はこの戦士達を知っていた…

「RX…アギト…ディケイド…。」

俺の旅はここから始まった…。

プロローグ（後書き）

いかがでしたか？

主人公の名前は決まっていますwwww

第1話 始まりとライダーとベルトの謎（前書き）

1話目です。

一応オーズ系統のライダーなので例のあらすじをやります。
今回もやはり駄文&短い&主人公変身無しです…？

あと、今回から後書きで次回予告をしていきます。

では、どうぞ！

第1話 始まりとライダーとベルトの謎

「RX アギト…デイクイド…」

俺の前に3人の仮面ライダーが現れた。

それを見た集団の中の蜘蛛の異形がデイクイドに言う。

「ビガラ…バビロボザ。」

「何者だっけか？俺は通りすがりの仮面ライダーだ！覚えておけ。」

「俺は太陽の子！仮面ライダーブラック！R・X！」

「光太郎さんには…聞いてないと思います…」

「すまん…つい癖でな…」

その台詞を待っていたかのようにデイクイドが名乗り、聞かれてもいないRXも名乗ったのでアギトがツッコむ。

「立てるか？」

「ああ…、はい。大丈夫です…」

デイクイドが手を差し伸べる。

俺は緊張して敬語で話してしまう。そして、その手を取って立ち上

がり建物の陰に隠れる。

集団がライダーに襲いかかり、3人はそれぞれの構えを取りそれに立ち向かう。

俺は目の前で起こる戦いに興奮を隠せなかった。

「だぁ！デリヤア！」

「ふん！トオオリヤ！」

「はぁ！だぁぁぁ！」

ライダーは集団を次々と倒して行く。

「グロンギにはこれだ！」

カメンライド・クウガ！

クウガのカードをバックルに入れ、ディケイドディケイドはDクウガへと姿を変える。

「クウガバ！？」

「まぁ、そつだな。はぁ！」

フォームライド・クウガ！タイタン！

タイタンフォームになり、ハリネズミの異形を殴り倒すDクウガ。その際近くにいたコンドルの異形が持っていたブーメランを奪い、大剣「タイタンソード」に変える。

今のデイケイドの言葉で思い出したが異形の種族名はグロンギだった。今までパニックで思い出せなかったのだ。

「R・X！バイオリダー！」

『グアアアアア！？』

バイオリダーになり液状化してグロンギを倒していくRX。

「ふっ！はああ！デエリヤアア！」

アギトはクロスホーンを開き、右腕が青色、左腕が赤色のトリニティフォームになる。

そして、両手に持った武器でグロンギを蹴散らしていく。

「…すげえ…」

俺はライダー達の戦いに思わず見とれていた。

大好きな仮面ライダーが目の前で戦闘しているのだ、興奮しない訳がない。テンションが上がり神経が視覚に集中する。

だがしかし、そのせいで背後から迫る透明の異形の気配に俺は気付かなかった・・・

その異形の舌が、俺の胸を貫く…辛うじて心臓は外していたが、俺の胸に風穴が空いた…

「…え？……ガハア！？……」

透明の異形は色を付けカメレオンのグロンギになる。

「クケケケ！」

「何！？くそっ！！」

カメンライド・カブト

アタックライド・クロックアップ

DクウガはDカブトになりクロックアップで俺の元に駆け出す。グロンギがディケイドを追いかけてようとしたが

「させるか！RX！ロボライダー！ボルティックシューター！」

ロボライダーがボルティックシューターでグロンギの集団の足を打ち抜き食い止めた。

ファイナルアタックライド・カ・カ・カ・カブト！

「デリヤアアア！」

「グギヤアアー！？」

Dカブトがカメレオンのグロンギを「ライダーキック」で蹴り倒す。

「おい！大丈夫か！？お…い…？」

ディケイドが掛けより俺の体を揺さぶる。

そして俺の手にあるバツクルとメダルを見ると驚いたような表情をする。

尤もマスク越しなので見えはしないが。

「おい！」

「大丈夫か！？」

RXとアギトが寄って来る。向こうを見るとグロンギの集団が全員倒れていた。どうやら片づいたらしい。

…あれ…？…頭がなんだか…クラクラしてきて…

ここで俺の意識は途切れてしまった…

―三人称―

「さて、どうしましょうか…このままじゃ命が危ないです…。」

「とりあえずこのままでは危険だ。俺が液化して中に入り命を繋ぐ。」

いつの間にかバイオリダーになっていたRXは、そう言って少年の人体に入り込む。

「いつも思っんですけど、何かグロいですよね…これ…。」

『言ってる場合か！？』

アギトの言葉にバイオリダーがツツコむ。もはやお笑いコンビである。

ここでアギトが言葉を失っているディケイドに気付く。

「どうか…したんですか…？」

「その…ベルトと、メダル…。」

「え？…！！」「これは…！？」

「突然姿を消したディレードライダーと…ライダーメダルだ…。」

今、少年の運命の歯車がゆっくりと静かにだが、確かに回り始めたのだった……。

第1話 始まりとライダーとベルトの謎（後書き）

次回！仮面ライダーディレード！

「??? お前にはこれから各世界の自分に会ってきてもらう。」

「??? 「新入り？あなたも親を殺されたの？」

「??? 「ここにも滅びの現象が…！おのれ…」

「??? 「変身！」

次回 滅びと旅と初変身

少年の自分探しの旅が今、始まる…！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5195ba/>

仮面ライダーディレード～世界を巡る特撮ヲタ～

2012年1月14日20時54分発行